



スタッフ業務改革と災害対策強化へ ITインフラ外部委託とDC移転を実施

外部委託とDC移転の計画立案と実行をNSSOLが全面サポート

背景

業務改革の一環として情報システム部を戦略企画系業務に集中させ、システムの災害対策を強化する。製品のEOSLと災害リスクの早期回避から1年間でサーバー約600台を外部データセンターへ移行・移設したいと考えた。



ヤマハ株式会社
情報システム部長
井川 祐介氏



ヤマハ株式会社
情報システム部
IS戦略室
室長
太田 久仁昭氏



ヤマハ株式会社
情報システム部
IS戦略室
主事
峯田 泰史氏

ソリューション

新日鉄住金ソリューションズが、顧客状況に応じて柔軟に対応可能なソリューションによりプロジェクトを着実に実行。同社の新鋭拠点、および同拠点で提供するクラウドサービスを活用するとともに、運用・保守を委託する。

成果

予定通り約1年でプロジェクトが完了。運用外部委託とデータセンター移転で情報システム部が戦略企画系業務に集中する体制の整備と災害対策強化を実現した。今後は、運用・保守の標準化や自動化でコストダウンを進める。

スタッフ業務改革を推進、サーバー移行・移設と運用外部委託を検討

「感動を・ともに・創る」を企業理念の最上位に掲げ、楽器・音響機器・半導体の製造・販売などを幅広く展開するヤマハ。2012年に創業125周年を迎え、さらなる未来への飛躍を目指している。同社が浜松本社および他拠点(東京)に分散したサーバー約600台について、外部データセンター(DC)への移転および運用・保守の外部委託を検討したのは2011年である。当時、ヤマハは円高・国内の少子高齢化といった経営環境の変化に対応するため「スタッフ業務改革」を推進。情報システム部を戦略企画系業務に集中させるとともに、ITインフラの運用・保守を外部委託する方針を定めていた。また、2008年には全社のBCP(事業継続計画)プロジェクトで災害対策強化の方針が打ち出されており、堅牢なDCへの移転を急いでいた。

NSSOLが企画・実行を支援、同社DCとクラウドサービスも活用

ヤマハは、RFP(提案依頼書)作成と、設計・実行の2フェーズでプロジェクトを推進。2011年8月に開始したフェーズ1ではITベンダー16社から、システム移転に詳しい点などを評価して新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)を選択。さらに2012年2月に開始したフェーズ2でもITベンダー6社からNSSOLを選択する。

NSSOLは既存環境を詳細に調査し、計画をまとめる。サーバーの移行・移設先にはNSSOLの新鋭DC、および同DCで稼働するクラウドITインフラサービス「absonne(アブソンス)」によるプライベートクラウド環境を活用するとともに、ヤマハの立場でベンダーコントロール(NSSOLの運用SEを含む)や新規案件プロジェクトマネジメント支援などを行う専任エンジニア「インフラパートナー」を用意した。

予定通りプロジェクトを完了、情報システム部の新体制がスタート

プロジェクトは予定通り2013年3月に完了し、運用・保守の外部委託が始まっている。サーバーの移行・移設に伴って一部システムで発生したパフォーマンス低下にはNSSOLのシステム研究開発センターの専門部隊が支援に入り、迅速に対処した。NSSOL新鋭DCをプライマリーとする国内東西2拠点体制の実現により災害対策も強化されている。また、ヤマハ社員が実施していた約1300に及ぶ運用・保守業務はNSSOLのインフラパートナーと運用SEがすべて巻き取った。サーバー移行・移設、データ移行、DC移転、および運用・保守の外部委託により、ヤマハは情報システム部が戦略企画系のコア業務へ集中する新体制を2013年4月からスタートさせている。今後は、運用・保守業務の自動化によるコストダウンを進める予定である。

Key to Success

ヤマハがサーバー移行・移設とデータ移行、運用・保守の外部委託を実施した背景は、業務改革への対応と災害対策強化、コストダウンの推進である。

情報システム部長の井川祐介氏は「円高・国内の少子高齢化に対応するため、当社は小さな本社を目指すスタッフ業務改革を進めており、その一環として情報システム部の業務を戦略企画系に集中させ、ITインフラの運用・保守を外部委託するという方針を打ち出していました」と語る。

情報システム部 IS戦略室 室長の太田久仁昭氏は「2008年に全社でBCPプロジェクトを実施した際、システムが浜松の本社工場内に集中し過ぎており、東海地震のような大きな災害が発生すれば、グローバルな事業に影響が出るという課題が指摘されていました。また、サーバー増加に対応して設置スペースを確保しながら、コストダウンを進める必要がありました」と振り返る。

ヤマハが外部DCやクラウドサービスを活用してサーバー移行・移設やデータ移行を行うのは初めてで、運用・保守の外部委託も規模が大きい。ヤマハは、それらを一元的に手掛けているNSSOLとともにプロジェクトを推進することを決める。

情報システム部 IS戦略室 主事の峯田泰史氏は「NSSOLはリハーサルを重視した綿密なスケジュールを策定しました。リハーサルを行っていない作業については、スケジュールに余裕を持たせるなど、現場経験がかなり豊富だと感じました」と述べる。

ヤマハはNSSOLの柔軟性も評価する。「こうしたプロジェクトでは、ユーザー企業とITベンダーが担当範囲を

固定化してしまいがちですが、今回は状況に応じて担当範囲をきめ細かく変更していました」(井川氏)。

ITインフラを対象にしたプロジェクトでありながら、NSSOLはアプリケーションの障害にも対処した。「移行・移設先の環境で性能が低下したアプリケーションが見つかりましたが、NSSOLはシステム研究開発センターなど同社専門部隊の支援で解決しました」(峯田氏)。

綿密な計画と柔軟な対応により DC移転や運用外部委託を実現

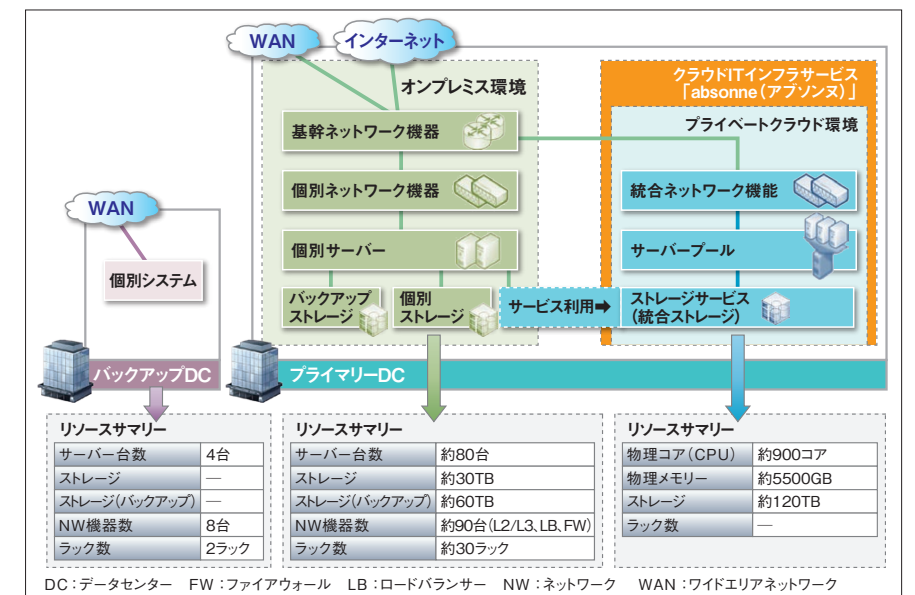
運用・保守の外部委託についても評価は高い。「NSSOLは、計画の中身も実現性の高いものが提案時に示されており、移転と並行しながら計画的に業務委託を完遂しました」(峯田氏)。

こうしてヤマハは、約1年間にわたり実施したデータセンタープロジェクトを計画通り2013年3月に完了させた。

太田氏は「大規模なプロジェクトが大きな障害もなく完遂できました。システム利用者から、いつの間にサーバーを移行・移設したのかという声が出たほどで、大成功といってよいでしょう」と評価する。

井川氏は「運用・保守の外部委託によって計画通り、情報システム部の新体制をスタートできました。今後は、システムの標準化や運用の自動化を進めることによって、コストダウンを行っていきます。現在は物理サーバー上で稼働している一部のシステムについても、バージョンアップ時にクラウドサービスへ移行・移設するなどに取り組み、当社とNSSOLがともにメリットを得られるWin-Winの関係になるための次の一歩を踏み出していきます」と述べる。

■ヤマハがデータセンタープロジェクトによって実現したITインフラの概要



■コアテクノロジー

ITアウトソーシングおよび運用移行、システム移行・移設、システムの標準化、クラウドサービス

■システム概要

- 移行・移設サーバー: 約600台
- クラウドサービス: クラウドITインフラサービス「absonne(アブソンス)」
- データセンター: 新日鉄住金ソリューションズ データセンター